

## 令和5年度 白鳩チルドレンセンター南丘事業報告

### 1. 概要

#### ①運営方針

- 平成24年に建物の大型修繕を補助金並びに福祉医療機構からの借入金（12年返済）を利用し実施しました。令和6年3月14日でもって借入金の返済が完了しました。
- 豊中市では園児獲得に苦慮する園が増加傾向にありますが、当園では予定通り1号認定児14名を含め181名の園児を獲得することができました。今後も危機感をもって、保護者並びに地域の信頼を得る園を目指し邁進をしていきます。
- ここ数年人材の安定・確保に苦慮していますが、本年も疾病による長期離脱者2名、中途退職者3名、産休・育休取得者3名と人材補充に苦慮した一年となりました。職員が長期に渡って働ける職場作りのための人材育成と環境整備対策が大きな課題です。今後も様々な媒体を利用しながら職員確保に努めます。
- 少子化が進むなか、園の魅力のアピールし入園希望者を増やすために、また子ども達の安心・安全を考え、園庭（827.72㎡）の全面人工芝張替えを実施しました。
- 事業計画で記したように、1階保育室（5室）のエアコン入替を実施完了致しました。

②定員 172名（1号認定児15名 2号認定児90名 3号認定児67名）

在籍園児数 : 1号認定児14名 2号認定児105名 3号認定児62名 合計181名

③事業日数 293日（日曜・祝日及び12/29～1/3は休園）

④開園時間 平日・土曜 7:00～19:00

#### ⑤保育時間

##### ★2号・3号認定児

平日		土曜	
標準時間保育	7:00～18:00	標準時間保育	7:00～18:00
短時間保育	9:00～17:00	短時間保育	9:00～17:00
延長保育	18:00～19:00	延長保育	18:00～19:00

##### ★1号認定児

平日	
早朝保育	7:00～9:00
通常保育	9:00～14:00
預かり保育	14:00～19:00

## ⑥職員数

園長 1 名、主幹保育教諭 2 名、保育教諭 30 名（うち非常勤保育教諭 8 名）、  
保育士 2 名（うち非常勤保育士 2 名）看護師 1 名、教育・保育補助 2 名、園務員 1 名、  
給食委託事業者からの派遣栄養士 1 名、派遣調理員 3 名、学校医 1 名、学校歯科医 1 名  
学校眼科医 1 名、学校耳鼻咽喉科医 1 名、薬剤師 1 名（年間 6 回環境衛生検査）

## 2. 教育・保育運営

### ①教育・保育理念

- 子どもは子ども同士認め合い、助け合い、励まし合い、学び合う子ども社会の中で成長する事が望ましいと考えます。
- 私たちは子どもの個性・人格を尊重し、自立を促し、日々の生活の中で家族とともにその成長・発達の援助を行います。

### ②教育・保育方針

- 社会福祉法人白鳩会保育メソッド・一日の保育の流れを中心に、子どもたちが主体的に生き生きと生活・活動できる環境を整え、自己を十分発揮し人として「生きる力」を育む。
- 在園児および地域の子育ての支援を行う。
- 愛着関係を確立させ、子どもとの継続的な信頼関係を築く。

### ③教育・保育目標

- 乳児期の愛着関係を基盤とし、認知能力（記憶、計算、判断、決定、言語理解など）と非認知能力（意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、思いやり、自己肯定感）を育む。

### ④クラス編成及び職員配置

0 歳児	ひよこ組	12 名	保育教諭	4 名
1 歳児	りす組	20 名	保育教諭	4 名
2 歳児	うさぎ組	30 名	保育教諭	5 名
3 歳児	くま組	40 名	保育教諭	5 名（1 号認定 5 名 2 号認定 3 5 名） （うち障害児加配保育教諭 4 名）
4 歳児	ぞう組	39 名	保育教諭	3 名（1 号認定 4 名 2 号認定 3 5 名） （うち障害児加配保育教諭 1 名）
5 歳児	きりん組	40 名	保育教諭	2 名（1 号認定 5 名 2 号認定 3 5 名）
合計園児数		181 名	保育教諭	23 名

一時保育担当保育教諭	1 名
預かり保育担当保育教諭	1 名
地域子育て担当保育教諭	2 名（うちパート職員 1 名）
朝夕延長保育担当教諭	2 名

## ⑤教育・保育内容

- 主体性を大切にしたい保育を目標にしていたのですが、保育を振り返ると、保育者主導になっていたりと、保育が保育者の自己満足になっていることが多いことを園全体で実感しました。そのため、本園で保育者の動きや、子どもとの関わり方を学ぶ機会をいただき、保育の見直しを行いました。
- 保育者の声が大きいため、子どもの声も大きくなっていることや、保育者が声を掛けすぎていることの改善を進めました。引き続き保育者自身がじっと子どもの姿を見守り、無駄な声掛けをしないことを意識していきます。
- 0～2歳児は、保育者の愛情豊かな関わりの中、乳児担当制保育や毎朝の「じゃれつき遊び」などを通して、保育者との愛着関係を築くと共に、個々に合わせた関わりや、援助・配慮を行いました。具体的に子どもとの距離を50cm～70cmと意識し、子どもとの心の距離を縮めることを大切にしました。今後も職員間で周知していきます。
- 保育の振り返りの中で、保育者が無意識に活動を進めていることが多いことに気付きました。例えば、食事場面では、何となく「いただきます」「ごちそうさま」をしています。食事のはじまりと終わりが分かるようにはじめをつけることの徹底など、保育者全員で心掛けました。
- リトミックや安田式遊具を使った運動遊び、戸外遊びを楽しみながら体力作りを進めましたが、体の使い方がわからない子どもや、体幹が弱く自分の体を支えることが難しい子どもが多く、課題を感じました。今後も体力作りを計画的に保育に取り入れていきます。
- 5歳児が「地球フレンズ」を通して、SDGSの取り組みを行いました。クイズや体を動かすコンテンツを楽しみながら、SDGSについて興味や関心を広げることができました。また、世界についても「知りたい」という意欲が芽生え、図書館に本を探しに行き子ども達自身で調べる活動を楽しみました。
- 栄養士や調理員と連携を図りながら子どもの食べる意欲を高め、様々な食材に興味や関心が持てるように、食育指導やクッキング、菜園活動（トマト、なす、きゅうり、ピーマン）を実施しました。自ら育て収穫した野菜のおいしさは格別のようなものでした。また、野菜が苦手な子どもも、「食べてみよう」という意欲に繋がりました。
- 「種をまこう」「ヒューマンライツカレンダー」を利用しながら、人権保育の時間を持ちました。子ども達に思いやりの気持ちなどが芽生え始めていることを感じます。

## ⑥家庭との連携

- “ドキュメンテーション”を用いて、生活や遊びの内容とその過程や、子どもの成長を可視化して保護者に分かりやすく伝えました。今年度より、乳児連絡ノートをChild Care Webに変更しましたが、保護者からは便利になったと好評でした。
- 保護者に向けて、おたよりや新入園児説明会、クラス懇談会の場などで、教育・保育理念、方針、目標、事業計画などについて、丁寧に説明を行いました。おたよりについては、ペーパーレス化を進め、保護者アプリからの配信に移行しました。
- クラス懇談会や個人懇談（各年2回）、就学前個人懇談、保育参観、保育参加（各年1回）を行いました。具体的な教育・保育の取り組みについて知らせると共に、保護者との信頼関係を深め連携を図りました。

- 虐待などが心配される家庭など要保護家庭について、関係機関と情報を共有し、協働しながら支援を行いました。具体的に年4回モニタリングシートを提出し、情報共有を行いました。
- 支援が必要な子どもについては、関係機関（豊中保健センター・池田児童相談所・豊中市の支援チーム）と連携を密に取り対応を行いました。それぞれの関係機関担当者が、年2回ずつ園に来園し、対象園児について話し合う機会を持ちました。
- 転園後の園児と保護者や卒園児とその保護者への支援を継続して行い、転園、卒園後の子どもと保護者を見守るための相談窓口を開きました。園長、主幹保育教諭が窓口となり、いつでも相談できる環境を整えたことで、今年度は2件の相談がありました。

## ⑦人材育成

- 「1日の保育の流れ」を年度末に見直し、今年度は新たに「チェックリスト」の作成を始めました。しかし、今年度中に「チェックリスト」を完成させることができませんでした。次年度は早急に完成させ活用していきます。自分達で作成することを大切にしていきます。
- 「1日の保育の流れ」を使い、新任職員に丁寧な指導を行いました。また、先輩保育者から業務指導を行い、安心して仕事を覚えていけるような指導体制を整えました。
- 白鳩会保育メソッドを基に園内にて勉強会を行いました。また外部の参加型研修会に積極的に参加し、専門知識を向上させ保育の質の向上を図りました。研修を受けた直後だけ熱い気持ちになるのではなく、その後も継続して気持ちを持続させることができるようにしていきます。
- 保育場面での気付きや発見、自分の思いを言葉で発信することができるような小グループの会議を毎月1回作りました。キャリアに関係なく意見を交わしたり、職員間の対話を大切にすることで、意思統一が図られ、仕事へのモチベーション向上に繋がりはじめたように思います。
- タブレット端末や、バージョンアップした Child Care Web の使い方について園内研修を行いました。1年間の使用を経て、ICT化に随分慣れることができました。
- 自己評価（年2回）と、チェックシートを使った教育、保育の振り返り（年1回）を基に園長と面談を行い、個々の課題について考え教育・保育の質の向上に結びました。

## ⑧地域の実態に対応した事業

### 1. 地域子育て支援事業

- 園長、主幹保育教諭、地域貢献支援員（スマイルサポーター）を中心に、地域の親子への育児相談や情報の提供などを行いました。子育て交流の場としては、いちごぐみ（年10回・2～3歳児対象・地域の10組の親子が参加）を実施しました。親子で一緒に楽しめるプログラムを計画し、親子の関わり大切さや、育児や子育てに関する情報を伝えました。
- 地域の方に園のことを知ってもらうことで地域での存在価値を高め、1号認定児確保へ結びました。今年度は2名の方が、1号認定児（3歳児クラス）として入園されました。
- 今年度より「みなみおかであそぼう」を再開しました。（年10回）また、園庭開放（計31組）、プール開放（年3回・計18組）を実施しました。同時に在宅親子や地域家庭保育所へ園行事（運動会、芋煮会、クリスマス会など）の参加を呼び掛け、園の掲示板やホームページ、豊中市のホームページなどを使って各イベントについての情報発信を行いました。

- 年3回地域の公民館に出向き、地域の親子（0，1歳児対象）と一緒に手遊びや触れ合い遊びなどを楽しむ出張保育（ももちゃん）を地域の民生委員さんと一緒に行いました。

## 2. その他の事業

- 今年度は、特に入学者数が多い南丘小学校と東泉丘小学校へ5歳児年長児が出掛け、交流会へ参加しました。実際に1年生と交流を深め、校内見学や授業への参加を体験することで、小学校への期待を高めることができました。
- 南丘小学校区と、東泉丘小学校区の2つの保幼小連絡会に参加し、「連携」から「接続」へ遊びの中の「学び」を捉え、小学校へ繋げていく”を年間テーマに教職員が共に学ぶ機会を持ちました。また子どもの様子、各施設の取り組みなどについて様々な情報の共有を行うことができました。8月には、保幼小の職員合同の研修会に参加し学びを深めました。
- 豊中市の子育て支援員養成のための見学実習園となり、実習生の受け入れを行いました。子育て支援員として自園での就労に繋がりたいと思っていましたが、今年度は就労には繋がりませんでした。引き続き見学実習園として、実習生の受け入れを行っていきます。
- インターンシップ、ボランティア、中学校の地域体験学習「CUL」、保育士養成校の実習生受け入れを積極的に行い、地域や行政、養成校との連携を深めました。今年度はボランティアから学生アルバイトとして2名の獲得に繋げることができました。
- 年に数回ある「地域福祉ネットワーク」や「小学校区連絡会」に参加し、豊中市北東部の福祉に携わる施設や団体、民生委員、児童委員と連携を図り、地域の子育てについて情報交換を行いました。地域と繋がるために今後も参加を続けていきます。

## ⑨苦情処理

- 事務所前に「意見箱」を設置し、保護者からの意見、要望を受け付けました。意見、要望には概ね24時間以内に対応し、掲示板へ回答書を貼り出し、協議中のものについては随時経過報告を行いました。今年度は2件の匿名での投書があり対応しました。
- 苦情解決責任者を園長、苦情受付担当者を主幹保育教諭として苦情解決に努めると共に、第三者委員2名の設置を行い保護者へ周知しましたが、今年度は苦情はありませんでした。
- 苦情や意見は真摯に受け止め、「園内における問題点（苦情処理）事例と経過」にまとめ迅速な対応を行いました。苦情や意見は職員会議や昼ミーティングなどで職員間で共通認識し、全職員で改善に努めました。

## ⑩リスクマネジメント

- 今年度は、コロナやインフルエンザ、胃腸炎など様々な感染症が流行したため、手洗い、うがい、換気、湿度調整などを徹底し、保護者への情報発信と啓発を行いました。今後も引き続き徹底した感染症対策を行います。
- 事故や怪我についてのマニュアルはありましたが、学校安全計画が作成されていなかったため、すぐに学校安全計画を作成し、全職員で共通理解しました。

- 怪我や事故防止に繋げるために、ヒヤリハットの取り組みを行い職員会議やリーダー会などで話し合いました。今後は引き続き実際に怪我の減少に繋がっているのか検証を行っていきたいと思います。
- 毎月1回備蓄品や防災マニュアルの見直しと確認を行い、職員間で情報の共有を行いました。期限が切れる備蓄品が多く、新しいものを購入すると共に、食べ物は給食などで提供しました。
- 緊急時の連絡カード、災害時の園児引渡し票を作成し、必要な時にすぐに使えるように整備しました。
- 感染症が発生した場合の対策方法や、SIDS対応、心肺蘇生法（AEDの使い方）などの研修を職員会議などで実施し、職員全員で学びました。
- 食中毒やアレルギーマニュアルを全職員で確認し、共通理解を図りました。また今年度はエピペンを預かるような子どもはいませんでした。また今年度は食物アレルギーによる発作が起こった時の緊急薬（エピペン）について全職員で研修を受けました。
- 消防署、警察と連携しながら、総合避難訓練や救命救急講習、交通安全指導、不審者対応講習を行い災害時に備えることができました。